

考 え る 人 に な る

— 美術のなかの男性表現について



静岡県文化プログラム

スペシャルトーク

×ロダンワーク

静岡県立美術館館長

彫刻家

Naoyuki Kinoshita × Auguste Rodin × Kikuro Miyashita

美術史家／神戸大学大学院人文学研究科教授

木下直之 × ロダン × 宮下規久朗



2019年11月2日(土)

14:00～16:30

静岡県立美術館 講堂

申込不要／無料／先着250名

静岡県文化プログラム
スペシャルトーク

×ロダンウィーク

11月1日(金)～4日(月・振替休日) ロダン館観覧無料

考える人になる

—美術のなかの男性表現について



若き日の考える人たち



写真Ⓐ ロダン



写真Ⓑ 木下直之



写真Ⓒ 宮下規久朗

日本一の饒舌美術史家宮下規久郎先生を静岡に迎える。宮下先生とわたしは、今から30年前に神戸の美術館で机を並べていた。楽しかったその生活は3年間で終わったが、それぞれの道を歩み始めたあとも、会えば美術について語り合い、そのつど「考える人」になってきた（若き日の写真参照）。今回は、静岡県立美術館が毎年開催する「ロダンウィーク」にちなんで、冥界からロダン先生（写真Ⓐ）をお招きして、美術のなかの男性表現について語り合おうという話になった。美術を論じては、彫刻よりも絵画が、男性表現よりも女性表現が話題になることが多く、男性彫刻はさぞかし肩身の狭い思いをしているだろう。それはいささかバランスを欠いてやしないかと「考える人」（写真Ⓑ）が、カラヴァッジョ研究にはじまり、今やイタリア美術史にとどまらず広く古今東西の美術を「考える人」（写真Ⓒ）に問いかけることから、この型破りロング対談、いや鼎談は始まる。西洋美術、日本美術のなかのさまざまな男性表現について考えることで、美術という人間の営みの根源に迫りたい。（木下直之）

木下直之（きのした・なおゆき）

静岡県立美術館館長・東京大学名誉教授

1954年浜松市生まれ。東京藝術大学大学院中退、兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館助教授、東京大学大学院教授を経て現職。19世紀日本の文化を研究。2015年春の紫綬褒章。著書に『美術という見世物』（サントリー学芸賞）、『ハリポテの町』、『写真画論』（重森弘淹写真評論賞）、『世の途中から隠されていること』、『わたしの城下町』（芸術選奨文部科学大臣賞）、『戦争という見世物』、『銅像時代』、『股間若衆』、『近くても遠い場所』、『せいきの大問題』、『動物園巡礼』、『木下直之を全ぶ集めた』などがある。

宮下規久郎（みやした・きくろう）

神戸大学大学院人文学研究科教授

1963年名古屋市生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修了。兵庫県立近代美術館などを経て現職。イタリアや日本近代を中心に、広く古今東西の美術史を研究。主な著書に、『カラヴァッジョー聖性とヴィジョン』（名古屋大学出版会 2004／サントリー学芸賞）、『刺青とヌードの美術史』（日本放送出版協会 2008）、『ウォーホルの芸術』（光文社 2010年）、『モチーフで読む美術史』（筑摩書房 2013）、『闇の美術史』（岩波書店 2016）、『聖と俗』（岩波書店 2018）、『そのとき、西洋では』（小学館 2019）など多数。



ミケランジェロ「アダムの誕生」（システィーナ礼拝堂）



カラヴァッジョ「キリストの埋葬」（バチカン美術館）



ロダン「バルザック像」（東京藝術大学）



高村光雲「西郷隆盛像」（上野公園）



大村正夫「若い力」（静岡駅近く）

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

tel.054-263-5755 fax.054-263-5767

ウェブサイト <http://www.spmao.shizuoka.shizuoka.jp>

交通案内

- JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
- JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分、または北口から静鉄バスで約30分
- JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分、または静鉄バスで約20分
- 静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、または静鉄バスで約3分
- 東名高速道路・静岡IC、清水ICまたは新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分



SHIZUOKA

静岡県文化プログラム

静岡県文化プログラム 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が定められた「文化プログラム」が、日本全国で開催されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。